

生と性を考えよう！通信

第16号

平成31年3月

旭川市保健所 健康推進課保健予防係

今回のテーマ

気になる子どもいませんか？
～誰もが通過する「学校」という場で、深く傷つく子ども達があります～



こんな子ども、いませんか？ セクシャルマイノリティの子どもたちの声

制服が着られない

「体が女だから、女の制服を着なくてはいけない。」これが苦痛でたまりません。つらくて、恥ずかしくて、とてつもない罪悪感と違和感に襲われます。親は「一時的な感情だ」と相手にしてくれませんか。どうすればいいのでしょうか…。

自分はどうなっていくの？ 将来に希望がもてない

自分が「レズビアン」と認識してから、このまま大人になっていくのが怖いんです。この先、私はどうなるんですか？どうやって生きていけばいいんですか？

自傷行為

自分がゲイであることを自分自身ではそれなりに受け容れていたように思います。授業や先生、親から「同性を好きになっても、両性であっても異常ではない」という肯定的な一言を言って欲しかっただけです。自分を罰するような気持ちで、自分の体を故意に傷つけました。

イジメと不登校

「オカマ」「ホモ」「おとこおんな」「気持ち悪い」「近寄るな」…。外の男子と何か違うところがあったのか自分でも分かりませんが、学校ではずっといじめられていました。しかし、いじめの原因と思われることを先生や両親に言うことができず、学校へ行けなくなり、不登校になってしまいました。

学校の先生

授業で先生が、TVでよく見るゲイやオネエタレントを笑い者にするような発言をしました。同級生の殆どが、一緒に笑っていました。何がそんなに面白いの？ゲイは笑われる存在なの？僕はみんなと一緒に笑った振りをするのが精一杯でした。一緒に笑わなければ、みんなが僕のことをゲイだと思うのではないかと思ったからです。

～トピックス～

平成30年9月27日にLGBT当事者等で活動している「パートナーシップを考える会・旭川」と当事者を支援する行政書士で構成する「一般社団法人ENISHI」が

- ①同性パートナーシップ認証制度の制定
 - ②性的少数者である子どもに配慮する基礎的な環境の整備
- に対する要望書を旭川市と市の教育委員会に提出しました。



教員6,000人のLGBT意識調査レポート

有効回答数5,879人

どう考えますか？ 子どもが抱える性の多様性 「同性愛」や「トランスジェンダー／性同一性障害」

1 LGBTについて授業で取り扱う必要がある 2 性的マイノリティについて教育現場でなぜ扱えないか（自由回答）

同性愛について教える必要がある

62.8%

性同一性障害について教える必要がある

73.0%

半数以上の先生が「必要」と考えています

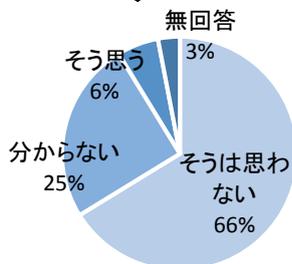
現在、LGBTについて授業で取り扱うことを実践している学校はまだ少数ですが、半数以上が「必要がある」ととらえていることが明らかになりました。

- ・文科省の学習指導要領に入っていない
- ・学校の中で「ホモ・オカマ」といったネタで笑いをとることが多い。
- ・同性愛を取り扱うと笑いがおきる。
- ・どう教えたら良いかわからない。

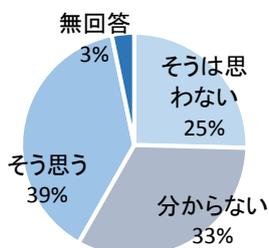
授業で取り上げたことがある → 約14%
出身養成機関で学んだことがある → 約8%

3 同性愛についての間違った理解

同性愛は精神的な病気のひとつだと思いますか？



同性愛になるか異性愛になるか、本人の選択によるものだと思いますか？



先生も学ぶ機会が少ない！

性的指向は選べるの？

約7割の先生が、性的指向は本人の選択によるものであると誤解していることがわかりました。「同性愛者になることは、個人に選択権があり、拒否することも、受け入れることも自由なのだ」という理解は誤りです。性的指向は嗜好や志向とは異なった“指向”であり、生まれ持ったものであると捉え、理解することが適切です。
<http://health-issue.jp/>

平成30年度 思春期性感染症予防講演会 『思春期の性教育～男子の性のリアル～』

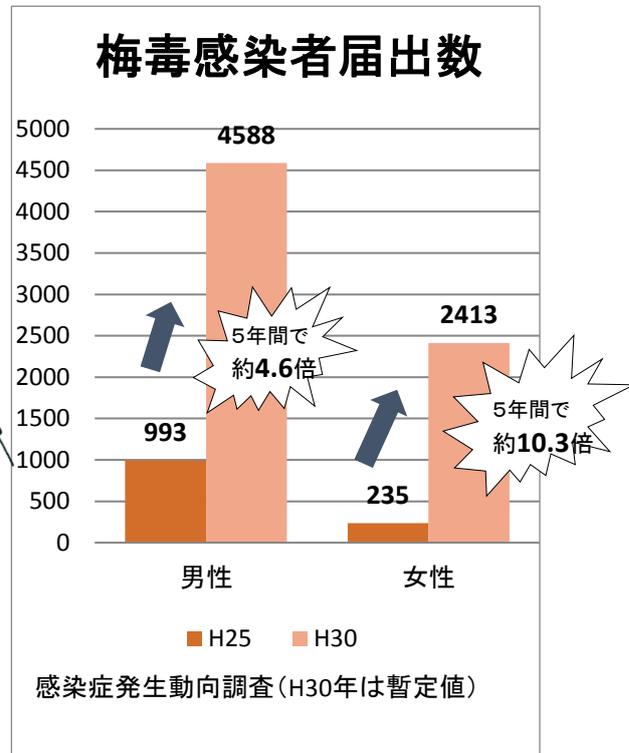
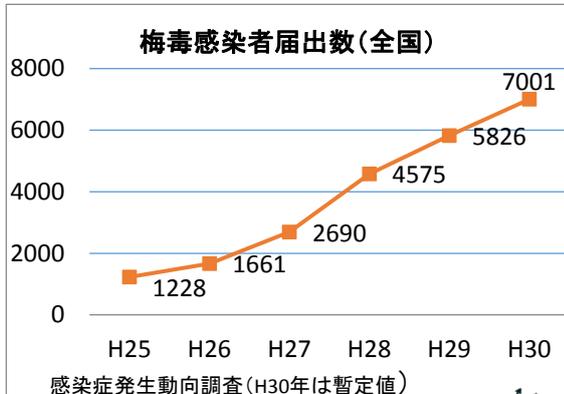
旭川市保健所では、思春期の性教育に関する機関の連携と情報の共有を目的に、毎年思春期性感染症予防講演会を開催しています。今年度は平成30年10月9日(火)に旭川市保健所にて開催し、学校関係者や医療関係者、保護者等28名が参加されました。

今回は助産師、思春期保健相談員である坂上昌代氏を講師として、「思春期の性教育～男子の性のリアル～」と題し、思春期の男子の性の悩みや性教育の実際について多角的な面からのお話を聞くことができました。

講演の内容は、性器やマスターベーション等、実際に思春期の男子が抱えている性の悩み、性のリアルとファンタジーに加え、自撮り被害については北海道においても増加していること、デートDVについては、10代の女子の43%、10代の男子の26%が経験しているとの報告がありました。参加者からは「男子の性について聞く機会がなかったのととても勉強になった」「幅広く最新の話、現場の話が聞けて参考になった」との感想がありました。

続報！！梅毒！！

梅毒については、前号でもお伝えしましたが、全国的に流行は続いており、全国では梅毒感染者届出数が平成25年の1,228件(旭川市1件)から平成30年の7,001件(旭川市13件)へと5年間で5.7倍に増えています。とくに20代女性の感染者が増えています。



梅毒とは、どんな病気なの？

梅毒トレポネーマという病原菌による性感染症で、感染部位に「しこり」や「えぐれ」ができたり、全身に「発疹」などが現れます。治療を行わずに放置すれば、脳や心臓などに障害を引き起こし、死に至ることもあります。

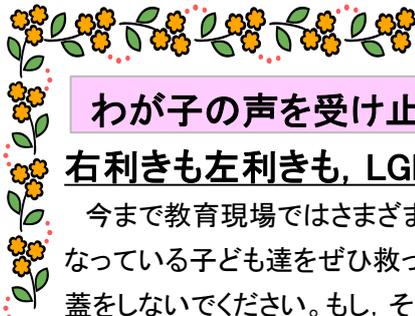
HPVワクチンと科学的エビデンス

旭川市保健所長 鈴木直己

昨年のノーベル医学生理学賞を受賞した本庶佑教授は、日本で子宮頸がんワクチン（ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン)の接種控えが続いている現状を憂慮し、科学的エビデンスに基づき積極的に接種を進めるべきと様々な場面で発信されています。これに先立ち2017年には医師でありジャーナリストでもある村中璃子氏がHPVワクチンの安全性と有効性についての一般的議論（パブリック・ディベート）に科学的エビデンスを導入した功績を評価され、ジョン・マドックス賞を受賞しました。この賞は多くの困難や、時には敵意にも相対しながら公共の利益に資する活動をした人に与えられる国際賞で、世界で最も権威ある科学雑誌「Nature」の元編集長名を冠したものです。昨年8月には受賞に関連して北海道新聞にもインタビュー記事が掲載されました。村中氏は詳細な取材と科学論文による考察でHPVワクチンの安全性と有効性を強調しています。

一方で、接種後に様々な症状のため大変辛い思いをしている方々やご家族への支援が重要であることは立場を超えて一致するところです。実は、HPVワクチン発売の前からこのような症状に苦しむ患者さんの存在は一部の医療関係者には知られていたものの、ワクチンと関連付けて考えられるようになって初めて社会で衆知されてきた事情があるようです。名古屋市における大規模な疫学調査により、多彩な症状とワクチン接種には関連が見られなかったとの結果が得られています。

いずれにしても、現に体調不良に悩む患者さんに寄り添う医療体制を整えることと、科学的根拠に基づいた保健医療情報が広く行き渡ることが重要と考えています。



わが子の声を受け止めて 性的マイノリティの子をもつ父母の手記

右利きも左利きも, LGBTも, みんな子どもの個性

今まで教育現場ではさまざまな問題に取り組んでこられたことと思います。水面下で押し潰されそうになっている子ども達をぜひ救ってください。特殊なもの、たんなる性的指向、奇異、理解を超えたこととして、蓋をしないでください。もし、そういう概念のある子がいたら、目をそらさず向き合ってください。実感しなくても、クラスに一人くらいいることを自覚して言葉を選んでください。

彼らは、親が彼らのことを慈しんでくれていることが痛いほどわかるだけに、最も身近にいる親には打ち明けられません。どうか、彼らが生活の大半を過ごす学校で、心の拠り所となるような場を作ってください。

LGBTの子どもは小学校高学年ごろから自分は何者なのか、男と女の二者択一のなかで揺れる自分はあるのか、もがき苦しみ、自己肯定ができないまま成長していきます。少年期において他者との関わりあいのなかで、犯罪者でもなく、人になんら迷惑をかけるわけでもないのに、蔑まれ、笑われて、傷ついて育っていくことが現状であることをよく認識してください。ひたすら自分を押し殺し、本当の自分の姿を出せずに友人づきあいをしなければならぬ状況を心の痛みとともにわかってください。

そのためには教員自身が、ゲイをはじめとするLGBTについてよく学んでください。右利きの子、左利きの子、運動の得意な子、芸能の得意な子・・・たんなる個性の一つであることを、教育現場で展開してください。今までわが子がお世話になった先生方のなかで、子どもが自殺まで考えていたとおわかりになる先生は多分いらっしやらないでしょう。

平等な世界の扉は、教育によって開かれると思っています。LGBTの悩み相談の件数は少ないと言われますが、少ないのではなく、声が挙げられないのです。心の闇は深いのです。先生方の深い洞察によって、差別がなくなることを願っています。(ゲイの母 50代) <http://health-issue.jp/p>

保健事業のご案内 詳細については、旭川市保健所健康推進課保健予防係まで

エイズ性感染症出前講座

最新の性感染症のデータをそろえ、現状を伝えると共に身近なものと感じられるよう中学、高校、各種専門学校、大学の学生を対象に、エイズ・性感染症予防について、保健所保健師などが出前講座を行います。

エイズ・STD予防に関するDVD・パネル等の貸し出し

HIV・エイズに関するDVD、パネル、健康教育用具の無料貸し出しを行っています。

HIV検査・梅毒検査

無料・匿名・結果は即日(30~60分程度かかります)
HIV検査・梅毒検査を実施しています。
休日・夜間にも実施しています。完全予約制です。
予約はエイズ専用相談電話で受け付けています。

エイズ専用相談電話

エイズ・性感染症、その他性に関する相談を受付けています。
TEL: 0166 - 26 - 8120
受付時間: 平日 8:45 ~ 17:15

○本誌に関するご意見、ご要望、お問い合わせは、下記連絡先まで。(年末年始を除く平日8:45~17:15)
旭川市保健所健康推進課保健予防係 TEL: 0166 -25 -9848 FAX: 0166 -26 -7733

今号で引用及び参考とした資料等

出典/「子どもの“人生を変える”先生の言葉があります。」「わが子の声を受け止めて 性的マイノリティの子をもつ父母の手記」厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業 個別施策層のインターネットによるモニタリング調査と教育・検査・臨床現場における予防・支援に関する研究
研究代表者 日高 庸晴(宝塚大学看護学部 教授) <http://health-issue.jp/>

